



ほり スクールソーシャルワーカーだより

ほり こと ほりかわしげとし

52

どんな動物も水が必要。でも、

水を飲むことを、決めるのは自分

☆ 馬に水を飲ませる の巻 ☆

どの小学校に通うかは住所によつて決まります。昔々、わたしに届いた入学通知には、歩いて1時間ほどの小学校の名が記されてありました。母が問い合わせ、住所の番地を1ケタ間違え、町の反対端から最寄りの小学校が指定されたものでした。

でも塾は違います。どこでも好きな塾を選んで構いません。子どもがすることは塾も学校も同じですが、中身はまったく違います。塾で習う内容も選べます。テレビショッピングに似て、持っている商品は買わないし、買い替えるなら今より不便な商品は買いませんね。塾でも九九を覚える、漢字の書き取りをする、そんな出来る事は教わりません。学校で習っていない内容を教えてもらうのではないのでしょうか。

他方、学校では好き嫌いに関係なく、まんべんなく教わります。何十人もの子どもに一斉授業をするには必要なメニューなのでしょう。

☆

さて、授業には、とくに低学年にはたくさんの「作業」があります。黒板を写す、教科書を読む、穴埋め問題は教科書の中から探し出し、記憶の底から思い出します。

思い出しはたくさんの作業の結果身に付いた内容の確認作業と言えます。学校でのほとんどが「作業」だと言えないのでしょうか。

学校は、それらの「作業」を通じ、子どもに何を身に付けさせるかという目的を持っています。授業の始まりに、その日の「おらい」を示す先生もいます。いますが、子どもたちは必ずしも「おらい」通りには学習せず単純に「作業」しているようです。

それでも体育や図工、音楽、家庭科は、一時間一時間の目標をしっかりと子どもたち自身が意識し、自分で「作業」完成の度合いを実感できます。子どもたちがこれらの科目を好きな理由は、こんなところにあるのかも知れません。

★

なぜ宿題をするのか分かっていないと、宿題に手を付けない子もあります。親が宿題の有無を知らなければ、親も取り组ませることはなく、必要を感じなければ自発的に取り組むことはないように思います。必要ないから忘れてしまう子どももあり得ます。



子どもが学ぶ喜びを持っていてどうか、そこがポイントのようです。

馬を水辺に連れて行ってでも 水を飲ませることはできない